

# 令和5年度 海外インターンシップ報告書

松本大学 総合経営学部 総合経営学科 3年

実習期間	令和5年 9月 18日(月) ~ 9月 22日(金) 5日間
実習企業	株式会社デリカ
実習地	THAI DELICA CO., LTD TOKAI WELDING AUTOMATION (THAILAND) CO., LTD. SIAM KUBOTA Corporation Co., Ltd Kubota Research & Development Asia Bolt & Nut Industry CO., LTD. Nippon steel trading (Thailand)co., LTD. SME MULTI CONSULTANT CO., LTD.

## 1. 実習目的

Chapter1 purpose

私が大学で学習している学問を社会で、どのように価値転用できるかを知ることです。具体的には、専門分野を学習する中で活かせると考えていることと、実際に活かせる部分のギャップを知ることです。また、経営学や経済学以外にも、社会情勢について学習しており、海外で就労することに興味を持ちました。そのことから、外国で働くことに対してどのような気持ちや考えを持っているのかを現地を通じて実感したく、実習の目的としました。

## 2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

### THAI DELICA CO., LTD

三点リンクをメインに製造しています。本社は長野県の松本市にあり、タイに進出している企業です。農業器具の部品の一つとなっており、シェアは8割と三点リンクのトップシェアを誇ります。

### TOKAI WELDING AUTOMATION (THAILAND) CO., LTD.

高圧ガスをメインとして、日本の産業を支えています。それ以外にも産業機器や、溶接材料の三つの事業を展開し、自動車などの産業分野はもちろんですが、それ以外にも食や医療にも携わっています。

### Kubota Research & Development Asia, SIAM KUBOTA Corporation Co., Ltd.

食と環境、水の生活基盤を陰で支えるインフラ事業を中心に行っている。

「For Earth, For Life」という理念のもと3つのインフラを構築、支援を行う。  
世界3位、日本では1位と高いシェアを誇る。

### Bolt & Nut Industry CO., LTD

株式会社デリカの3割を占めるサプライヤーの一つ。株式会社デリカの三点リンクや他の製造業で使用する機械等を製造するためのナットやボルト、部品などを製造しています。

### Nippon steel trading (Thailand)co., LTD

株式会社デリカの3割を占めるサプライヤーの一つ。複合専門商社として食や繊維、鉄鋼、産機・インフラを通して多くの企業に対し、世界中の情報を調査、整理したうえで、素材などの提案を行っています。

### SME MULTI CONSULTANT CO., LTD.

主に、タイに進出している日系中小企業の会計や監査、法務や労務などを幅広く担当する税務コンサルタントです。近年では、M&Aが増加しており多様な会計の方法からそれらに対するサポートを行っています。

## 3. 実習日程

Chapter3 schedule

9/18 タイの情勢、タイデリカの説明、工場見学、東海溶材見学

9/19 クボタの製造工場と研究・開発拠点見学

9/20 日本製鉄とボルト&ナット視察

9/21 クボタファーム（クボタ保有の農場）&総括

9/22 バンコク視察・タイの会計事務所訪問

## 4. 実習内容

Chapter4 laboratory

9/18 の午前中はタイの情勢やタイデリカの説明を聞きました。午後はタイデリカさんの工場見学や東海溶材見学を行いました。



9/19 クボタの製造工場の担当者の方のお話を伺い、工場見学を行いました。午後は、研究・開発拠点の方のお話を伺いました。

9/20 の午前中は日本製鉄へ行き、お話を伺いました。午後はボルト&ナットの方と英語でディベートをし、その後工場を視察しました。



9/21 の午前中はクボタの農場見学を行いました。午後はタイデリカに戻り総括やフィードバックをしました。



9/22 はバンコク視察を午前中に行い、午後は会計などを担当しているコンサルティングの方のお話を伺いました。



## 5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

私がタイでの海外インターンシップを通じて成長したことは2つあると考えています。まず、以前に比べて、視野が広がったことです。具体的には、私が普段いる場所から離れ実習をしました。また、今まで見てきた業界とは違った製造業界やインフラを支える業界を中心に視察したことです。私が行ったタイでは日本と文化や挨拶のやり方から整備されていない状況が日本とは異なっていました。特に、日本に比べ道路の整備や電柱の線がとても煩雑でした。また、トイレも有料であるところが多く、日本のトイレよりも汚く、水の流れも悪いトイレであるにも関わらず、チップを請求していました。また、

このトイレは水が流れないため、使用済みのティッシュはゴミ箱に捨てなければなりません。これは衛生的に悪いと考えたと同時に、日本が恵まれていることにも気づくことが出来ました。この気づきは比較対象がなければ気づくことが出来ないと、タイデリカの駐在員である戸田さんがおっしゃっていました。また、業界の気づきでは普段見ない業界を研究するきっかけになったと考えています。製造業一つとっても、それに対するサプライヤーは他業界にわたります。特に、実習3日目で、複合専門商社である日鉄物産の視察へ行ったとき、その気づきを一番感じました。一見関係の内容に思える業界同士でも、鉄鋼を仕入れる場合、それらの情報やノウハウを知る必要が出てきます。そういった現場を通して得られた気付きは、今後の業界分析や社会動向を学習するうえで貴重な経験でした。次に、感謝の気持ちをより強く持ったことです。このインターンシップは私一人ではできなかつたです。様々な人の力を頂き、貴重な経験をさせていただきました。そのような経験を通じて、一人の力では何もできないから周りとの協力体制が必要不可欠だと考えました。それらが、ネットワークとなり問題解決を常にしていることを知りました。これらを帰国後、周りの力を借りると同時に与えることを通じて人から感謝される人材になれるよう、今後の課題に取り組んでいきたいと考えています。

## 6. 今後の課題

Chapter6 problem

本インターンシップを通じて感じた課題は3つあります。1つ目は英語力の向上を図る必要があったことです。特に、それを感じたのは3日目のボルト&ナットでの視察でした。二人の社員の方々がいらっしゃった際に、一人が日本語を話せなかつたため、英語でやり取りをすることになりました。問いに対する重要な部分は聞き取れましたが、「What do you think about Japan?」と聞かれた際に、伝えようとしていたことが伝えきれませんでした。結局、その質問に対して回答することが完全には出来ませんでした。その後は苦労しながらも、拙い英語でコミュニケーションを取りました。その際に、うまく話すことが出来なかつたという危機感を体感することができました。就職活動を行う中で同時に、英語学習も進めていきたいと考えました。2つ目は、業界についての理解をより深めていく必要があるということです。始めにも書きましたが、製造業のことをあまり知らない状態でした。しかし、視察や訪問を通じてあらゆる業界が繋がっていることを実感しました。それと同時に知らなかつた知識が分かってくる楽しさを感じました。この感情を忘れずに業界の分析や社会人とお話する機会を増やしていきたいと考えています。最後に、人と関わる機会を作っていくことの重要性です。今日、ネットがあれば情報や知識を得られる時代になりました。つまり、何かを得ることに対して困ることがなくなっています。しかし、人との出会いは自分自身の考え方を変化させる一番の機会でした。表面的な情報だけでは得られない、気づきや発見が話し手によってプラスされているためです。日本へ帰国して社会人とお話しする経験はもちろんですが、人と関わってwin-winを作れるような価値提供をできたらと考えています。

## 7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

応募に特別な理由はいらないと考えています。海外に行きたいから、海外にちょっと興味を持ったから、最初は、単純な動機でもいいと考えていますし、私自身もそうだったと考えております。インターンシップへ行く日が近づくにつれて目的意識もできてくると思います。もし、迷うことがあるとするならば、その時点で、間違いなく行きたいという気持ちが少しでもあると思います。そういった方は、まず応募してみることをお勧めしたいと考えております。

株式会社デリカ様、この度は私を海外インターンシップに受け入れていただき誠にありがとうございます。特に、タイでは説明会でもお話しいただき、羽田空港から帯同してくださった社長の金子様、私たちのために日程調整や段取りなど僕たちからは見えないところでサポートしてくださった、タイデリカの駐在員である本江さんや戸田さんには、現地で特にお世話になりました。この方たちのサポートがあったことで、海外インターンシップという貴重な経験を積むことができることはもちろん、カルチャーショックや体調不良、海外での大きなトラブルに悩むことがなく、とても円滑なインターンシップとなりました。また、戸田さんの言葉で「中小企業にはロマンがある」という言葉を頂き、夢を追って仕事をされている人が海外にいるということは私自身の身で知ることが出来たと思います。「多くの人に価値を提供する」という私の軸をより強固なものにしたと考えています。末筆になりますが、貴社のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。